

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 地歴公民 科目 日本史探究

教科： 地歴公民 科目： 日本史探究

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者： (123組：石川) (45組：石川) (6組：石川) (7組：石川) (8組：石川) (組：)

使用教科書： (日本史探究『詳説日本史』 山川出版社)

教科 地歴公民 の目標：

- 【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	<p>■近代国家の展開</p> <p>【知識・技能】この時代の戦争の背景、日本の国際的地位の変化や外交政策の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、国内で社会運動が起った背景と政党政治の成立について理解する。【思考・判断・表現】戦争が国民としての自覚をもたらした。アジア近隣諸国民が日本の外交姿勢をどのように受け止めたのか、国際的 민족運動の高揚について多面的・多角的に考察する。【主体的に学習に取り組む態度】歴史的な戦争が日本の近代化の過程の中でも意味、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究する。</p>	<p>◆日清・日露戦争と国際関係(条約改正、朝鮮問題、日清戦争と三国干渉、立憲政友会の成立、列強の中国進出と日英同盟、日露戦争、韓国併合、満洲への進出、桂園時代) ◆第一次世界大戦と日本(大正政変、第一次世界大戦、日本の中国進出、政党内閣の成立) ◆ワシントン会議(パリ講和会議とその影響、ワシントン会議と協調外交、社会運動の勃興、護憲運動と護憲三派内閣の成立)</p>	<p>【知識・技能】この時代の戦争の背景、日本の国際的地位の変化や外交政策の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、国内で社会運動が起った背景と政党政治の成立について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】戦争が国民としての自覚をもたらした。アジア近隣諸国民が日本の外交姿勢をどのように受け止めたのか、国際的 민족運動の高揚について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】対外的な戦争が日本の近代化の過程の中でも意味、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	12
	定期考査			○	○	○	1
2 学期	<p>■近代産業と生活</p> <p>【知識・技能】産業の発達の背景と影響、国家主義的思想、教育の普及・拡充、学問・芸術・出版・マスメディアの発展について諸資料から情報を読み取り、社会風潮との関連を理解する。【思考・判断・表現】労働問題や公害問題の発生、都市の発達、鉄道・駅の設置、工場増加や生活の変化など、地域社会の変容について多面的・多角的に考察する。【主体的に学習に取り組む態度】産業の発展による社会問題への対応、明治文化の特色と大衆社会が生まれる過程について、自ら主体的に追究する。</p>	<p>◆近代産業の発展(通貨と銀行、産業革命、紡績と製糸、鉄道と海運、重工業の形成、農業と農民、労働運動の進展) ◆近代文化の発展(明治の文化と宗教、教育の普及、科学の近代化) ◆市民生活の変容と大衆文化(大衆景気、都市文化の進展と市民生活、大衆文化の誕生、学問と芸術)</p>	<p>【知識・技能】産業の発達の背景と影響、国家主義的思想、教育の普及・拡充、学問・芸術・出版・マスメディアの発展について諸資料から情報を読み取り、社会風潮との関連を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】労働問題や公害問題の発生、都市の発達、鉄道・駅の設置、工場増加や生活の変化など、地域社会の変容について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】産業の発展による社会問題への対応、明治文化の特色と大衆社会が生まれる過程について、自ら主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	13
	定期考査			○	○	○	1
3 学期	<p>■恐慌と第二次世界大戦</p> <p>【知識・技能】日本で連続した恐慌と、軍部の台頭と対外政策について理解し、戦争の長期化と外交に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解する。【思考・判断・表現】協約国が次第に緊張が高まり、当時の社会が抱えた矛盾、軍部の政治的進出などの諸事象を関連づけて、全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する。【主体的に学習に取り組む態度】当時の新聞・世論の動向を読み取り、軍部の台頭がもたらした太平洋戦争に至る過程について主体的に課題を追究する。</p>	<p>◆恐慌の時代(戦後恐慌から金融恐慌へ、社会主義運動の高まりと積極外交への転換、金融恐慌と世界恐慌、協調外交の挫折) ◆軍部の台頭(満洲事変、政党内閣の崩壊と国際連盟からの脱退、恐慌からの脱出、転向の時代、二・二六事件) ◆第二次世界大戦(三国防共協定、日中戦争、戦時統制と生活、戦時下の文化、第二次世界大戦の勃発、新体制と三国同盟、太平洋戦争の始まり、戦局の展開、国民生活の崩壊、敗戦)</p>	<p>【知識・技能】日本で連続した恐慌と、軍部の台頭と対外政策について理解し、戦争の長期化と外交に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】協約国が次第に緊張が高まり、当時の社会が抱えた矛盾、軍部の政治的進出などの諸事象を関連づけて、全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】当時の新聞・世論の動向を読み取り、軍部の台頭がもたらした太平洋戦争に至る過程について主体的に課題を追究しようとしている。</p>	○	○	○	13
	定期考査			○	○	○	1
3 学期	<p>■占領下の日本</p> <p>【知識・技能】戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定、占領政策とその転換による日本の政治や経済の変化に関する諸資料から情報を読み取り、日本の主権回復の意義について理解する。【思考・判断・表現】戦後の諸改革が連合国対日占領政策にもとづいており、日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、占領前後の社会や思想・文化など多面的・多角的に考察し、表現する。【主体的に学習に取り組む態度】現代の日本との関係性を踏まえ、戦後改革がどのような社会の枠組みを形成したのか、主体的に課題を追究する。</p>	<p>◆占領と改革(戦後世界秩序の形成、初期の占領政策、民主化政策、政党政治の復活、日本国憲法の制定、生活の混乱と大衆運動の高揚) ◆冷戦の開始と講和(冷戦体制の形成と東アジア、占領政策の転換、朝鮮戦争と日本、講和と安保条約、占領期の文化)</p>	<p>【知識・技能】戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定、占領政策とその転換による日本の政治や経済の変化に関する諸資料から情報を読み取り、日本の主権回復の意義について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】戦後の諸改革が連合国対日占領政策にもとづいており、日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、占領前後の社会や思想・文化など多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】現代の日本との関係性を踏まえ、戦後改革がどのような社会の枠組みを形成したのか、主体的に課題を追究しようとしている。</p>	○	○	○	13
	定期考査			○	○	○	1
3 学期	<p>■高度成長の時代</p> <p>【知識・技能】自由民主主義の成立、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生について理解し、戦後の日本経済の成長や高度成長期の国民生活の変化に関する諸資料から情報を読み取る。【思考・判断・表現】国交交渉と国際連合への加盟、新安保条約・沖繩返還問題などの外交事象がもたらした課題、日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけて多面的・多角的に考察し、表現する。【主体的に学習に取り組む態度】55年体制、保守政権の安定化、高度経済成長がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえ、追究する。</p>	<p>◆5 5 年体制(冷戦構造の世界、独立回復後の国内再編、55年体制の成立、安保条約の改定、保守政権の安定) ◆経済復興から高度経済成長へ(朝鮮特需と経済復興、高度経済成長、大衆消費社会の誕生、高度経済成長のひずみ)</p>	<p>【知識・技能】自由民主主義の成立、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生について理解し、戦後の日本経済の成長や高度成長期の国民生活の変化に関する諸資料から情報を読み取っている。</p> <p>【思考・判断・表現】国交交渉と国際連合への加盟、新安保条約・沖繩返還問題などの外交事象がもたらした課題、日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】55年体制、保守政権の安定化、高度経済成長がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえ、追究しようとしている。</p>	○	○	○	7
	定期考査			○	○	○	1
3 学期	<p>■激動する世界と日本</p> <p>【知識・技能】石油危機による世界経済の混乱、日本の経済大国化、冷戦終結後の国際関係、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へ進んだ経済状況などについて理解する。【思考・判断・表現】日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について、国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革などについて多面的・多角的に考察し、その結果を表現する。【主体的に学習に取り組む態度】冷戦終結後の国際社会における日本の役割について、自ら課題を見出して主体的に追究する。</p>	<p>◆経済大国への道(ドル危機と石油危機、高度経済成長の終焉、経済大国の実現、バブル経済と市民生活) ◆冷戦の終結と日本社会の変容(冷戦から地産競争へ、55年体制の崩壊、朝鮮戦争と日本経済、現代の諸課題)</p>	<p>【知識・技能】石油危機による世界経済の混乱、日本の経済大国化、冷戦終結後の国際関係、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へ進んだ経済状況などについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について、国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革などについて多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】冷戦終結後の国際社会における日本の役割について、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	7
	定期考査			○	○	○	1
合計						70	

東京都立松が谷高等学校 令和5年度年間授業計画

教科:(地理歴史)科目:(世界史B) 対象:(第3年1~8組)

使用教科書:山川出版社「詳説世界史 改訂版」

使用教材:最新世界史図表 タペストリー

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	学習 時数
4月	先史の世界	道具の進化と人間の生活の変化を理解することができる	定期考査 教材に関わる提出物 授業態度 ノート提出	2
	古代オリエント世界	文明の成り立ちとその背景を理解することができる メソポタミア文明とエジプト文明の違いを把握することができる		6
5月	ギリシア世界	ヨーロッパ文化の起源としてのギリシア文化を理解することができる ポリス社会の時代とヘレニズム時代の違いを把握することができる	定期考査 教材に関わる提出物 授業態度 ノート提出	5
	ローマ世界	ヨーロッパ文化の起源としてのローマ文化を理解することができる 共和政の時代とローマ帝国の違いを把握することができる		6
6月	西ヨーロッパ世界の成立	西ヨーロッパ世界の成立	定期考査 教材に関わる提出物 授業態度 ノート提出	6
	東ヨーロッパ世界の成立	ロシアとその周辺の歴史を理解することができる		6
7月	西ヨーロッパ中世世界の変容	封建社会の成り立ちとその意義について理解することができる	定期考査 教材に関わる提出物 授業態度 ノート提出	5
	西ヨーロッパの中世文化	キリスト教中心の文化であることを理解することができる		2
8月				
9月	イスラーム帝国の成立	イスラーム教の成り立ちとその特徴を理解することができる	定期考査 教材に関わる提出物 授業態度 ノート提出	6
	イスラーム世界の発展	西アジア・中央アジア・ヨーロッパ世界のイスラーム化を理解することができる		6
10月	インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化	インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化を理解することができる	定期考査 教材に関わる提出物 授業態度 ノート提出	7
	イスラーム文明の発展	イスラーム教とアラビア語が融合して成り立った特徴を理解することができる		5
11月	陸と海のネットワーク	古来からある貿易の実態を理解することができる	定期考査 教材に関わる提出物 授業態度 ノート提出	6
	海の道の発展	東アジア、東南アジア、地中海世界それぞれの海上交通の歴史を理解することができる		6
12月	ヨーロッパ世界の拡大	大航海時代とルネサンスについて理解することができる	定期考査 教材に関わる提出物 授業態度 ノート提出	5
	主権国家体制の形成	ヨーロッパの絶対王政を理解することができる		2
1月	欧米における近代社会の成長	アメリカ独立、フランス革命の歴史的意義について理解することができる	定期考査 教材に関わる提出物 授業態度 ノート提出	4
2月				
3月				

東京都立松が谷高等学校 令和5年度年間授業計画

教科:(地理歴史)科目:(日本史B) 対象:(第3学年1~8組)

使用教科書:山川出版社「詳説日本史 改訂版」

使用教材:

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定 単位数
4月	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 2. 農耕社会の成立	遺跡や遺物に加えて史料も加えて歴史を再現し、文化の特色を明確に理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	2
	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 3. 古墳とヤマト政権	遺跡や遺物に加えて史料も加えて歴史を再現し、文化の特色を明確に理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	2
5月	第1部 原始・古代 第2章 律令国家の形成 1. 飛鳥の朝廷	国家が形成される過程を隋との関係に着目しながら、その理想を理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	2
	第1部 原始・古代 第2章 律令国家の形成 2. 律令国家の成立	理想の国家を形成する過程を、唐や朝鮮との関係から、その展開を理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	2
	第1部 原始・古代 第2章 律令国家の形成 3. 平城京の時代	律令体制の確立とその内容について理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	2
	第1部 原始・古代 第2章 律令国家の形成 4. 天平文化	東アジア世界との関係に配慮しながら、文化の特色について理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	2
6月	第1部 原始・古代 第2章 律令国家の形成 5. 平安朝廷の形成	東アジアとの関係の変化と、古代国家の推移について理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	3
	第1部 原始・古代 第3章 貴族政治と国風文化 1. 摂関政治	東アジアとの関係の変化と、古代国家の推移について理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	3
	第1部 原始・古代 第3章 貴族政治と国風文化 2. 国風文化	東アジアとの関係の変化から、文化の特色とその成立の背景について理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	3
	第1部 原始・古代 第3章 貴族政治と国風文化 3. 荘園と武士	荘園・公領の動きや武士の台頭など諸地域の動向を中世にむけて理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	3
7月	第2部 中世 第4章 中世社会の成立 1. 院政と平氏の台頭	武士の土地支配と公武関係、宋との関係に着目して、中世国家の成立を理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	3
8月			考查および小テストによって確認	
9月	第2部 中世 第4章 中世社会の成立 2. 鎌倉幕府の成立	武士の土地支配と公武関係に着目して、中世の形成過程を理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	3
	第2部 中世 第4章 中世社会の成立 3. 武士の社会	武士の土地支配に着目して、中世国家の社会の仕組みについて理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	3
	第2部 中世 第4章 中世社会の成立 4. 蒙古の襲来と幕府の衰退	武士の土地支配と元などとの関係に着目して、国家や社会の変化について理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	3
	第2部 中世 第4章 中世社会の成立 5. 鎌倉文化	宋・元などとの関係、仏教の動向に着目して、文化の特色について考察させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	3
	第2部 中世 第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立	日本の動向、東アジアとの関係から、中世社会の多様な展開を理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	3
10月	第2部 中世 第5章 武家社会の成長 2. 幕府の衰退と庶民の台頭	産業経済の発展、庶民の台頭と下剋上に着目して、中世社会の展開を理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	3
	第2部 中世 第5章 武家社会の成長 3. 室町文化	武家と公家の関わりや庶民文化に着目して、文化の特色と成立について理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	3
	第2部 中世 第5章 武家社会の成長 4. 戦国大名の登場	庶民の台頭と下剋上に着目し、中世から近世への移行を理解させる基礎を考えさせる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	3

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定 時数
11 月	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1. 織豊政権	ヨーロッパやアジアとの関係の中で、織豊政権の形成過程を理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	3
	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 2. 桃山文化	ヨーロッパやアジアとの関係の中で、文化の特色に着目して理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	3
	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 3. 幕藩体制の成立	ヨーロッパやアジアとの関係の中で幕藩体制の政治・経済の形成過程を理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	3
	第3部 近世 第7章 幕藩体制の展開 1. 幕政の安定	幕藩体制下の政治・経済基盤に着目し、近世の形成過程の特色を理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	3
	第3部 近世 第7章 幕藩体制の展開 2. 経済の発展	幕藩体制下の身分制度に着目して、近世の社会の仕組みについて理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	3
12 月	第3部 近世 第7章 幕藩体制の展開 3. 元禄文化	文化の特色について、近世の形成過程の時期の文化の特色を理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	2
	第3部 近世 第8章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革	幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	2
1 月	第3部 近世 第8章 幕藩体制の動揺 2. 幕府の衰退	諸産業・交通・技術・学問・思想の動きに着目し、幕藩体制の変容を理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	2
	第3部 近世 第8章 幕藩体制の動揺 3. 化政文化	諸産業の発展、町人文化の形成を理解させ、生活や文化の特色を理解させる。 「授業→復習→10分間テスト→復習」の繰り返しによって基礎的知識を身につける。	考查および小テストによって確認	2
2 月				
3 月				

東京都立松が谷高等学校 令和5年度年間授業計画

教科:(地理歴史)科目:(地理B) 対象:(第3学年1~8組)

使用教科書:東京書籍「地理B」、帝国書院「新詳高等地図」

使用教材:

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	学習 時数
4月	球体としての地球	<ul style="list-style-type: none"> 球体である地球上での絶対位置を定めるための緯度と経度について理解する。 地軸が公転面に対して傾いているため、高緯度地域ほど昼の時間と夜の時間の1年間を通じた変化が大きくなることを理解する。 自転による時差について理解する。ある地点の時刻をもとに他の地点の時刻を求めることができる。 	定期考査の得点 授業への取り組み方 出席状況	5
5月	世界の地形	<ul style="list-style-type: none"> プレートテクトニクスについて学ぶ。 日本には火山が多く、地震も頻発している理由を説明し、過去の被害について学ぶ。 1学期中間考査の実施 	定期考査の得点 授業への取り組み方 出席状況	7
		<ul style="list-style-type: none"> 1学期中間考査の問題解説 造山帯と安定陸塊について学ぶ。 		2
6月	世界の地形	河川の作る地形、海岸にみられる地形など、外的営力によってつくられる小地形について学ぶ。	定期考査の得点 授業への取り組み方 出席状況	5
	世界の気候	<ul style="list-style-type: none"> 気候要素と気候因子について学び、なぜ世界の各地で気候が異なるのか考察する。 ケッペンの気候区分を中心に、世界各地の気候の特徴とそこでの人々の生活についてみていく。 		7
7月	日本の自然の特徴と人々の生活	<ul style="list-style-type: none"> 1学期期末考査の実施 1学期期末考査の問題解説 日本の地形と気候について概観し、台風や地震などの自然災害とそれに備える防災対策に関して学ぶ。 	定期考査の得点 授業への取り組み方 出席状況	4
8月				
9月	世界の農業	<ul style="list-style-type: none"> 農業の発達と分布について学ぶ。 世界の農業地域区分を概観し、地域ごとに抱える問題点は異なることを理解する。 現代世界においては農業もグローバル化していることを学ぶ。 	定期考査の得点 授業への取り組み方 出席状況	5
	世界の林業・水産業 食料問題	<ul style="list-style-type: none"> 世界の林業と水産業について学ぶ。 日本の農林水産業とその問題点について学ぶ。 世界と日本の食料問題について、国や地域でそのありようはさまざまであることを学び、どのように対応すべきか考える。 		4
10月	世界のエネルギー・鉱産資源	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー資源の利用と分布について学ぶ。 鉱産資源の分布について学ぶ。 	定期考査の得点 授業への取り組み方 出席状況	1
	資源・エネルギー問題	現代世界のさまざまな資源・エネルギー問題について学ぶ。		3
	世界の工業	<ul style="list-style-type: none"> 工業の発達と立地について学び、先進地域、新興地域それぞれの工業の現況についてみていく。 工業の分野でもグローバル化が進んでいることや知識産業としての工業が発達していることを学ぶ。 2学期中間考査の実施 		4
		<ul style="list-style-type: none"> 2学期中間考査の問題解説 日本の工業とその問題点について学ぶ。 		3
11月	第3次産業 世界を結ぶ交通通信	<ul style="list-style-type: none"> 第三次産業の業種について学び、そのなかの観光業について詳しくみていく。 世界の交通網について概観し、交通・通信網による世界の一体化について学ぶ。 	定期考査の得点 授業への取り組み方 出席状況	3
	現代世界の貿易と経済圏	<ul style="list-style-type: none"> 世界の貿易の現状と課題について学ぶ。 世界的に進む貿易の自由化のなかでの、日本の貿易の現状と課題について考える。 		3
	世界の人口 人口問題	<ul style="list-style-type: none"> 人口爆発、人口転換、人口移動等について学び、世界の人口問題について考える。 発展途上国、先進国の具体的な人口問題について考える。 		3
	村落と都市 都市・居住問題	<ul style="list-style-type: none"> 集落の成り立ち、村落形態と機能、都市の機能と生活について学ぶ。 交通渋滞、大気汚染、ごみ問題などの都市問題について考える。 		3
12月	民族・領土問題	<ul style="list-style-type: none"> ユーゴスラビア、パレスチナ、クルド人を例として、民族問題や領土問題について考える。 	定期考査の得点 授業への取り組み方 出席状況	2
		2学期期末考査の実施		1
	世界各地の先住民	<ul style="list-style-type: none"> 2学期期末考査の問題解説 南北アメリカ大陸、オーストラリア、ニュージーランドの先住民について学ぶ。 		3
1月	地球的課題の追究	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題について学ぶ 学年末考査の実施 	定期考査の得点 授業への取り組み方 出席状況	4
2月				
3月				

東京都立松が谷高等学校 令和5年度年間授業計画

教科:(公民)科目:(倫理) 対象:(第3学年1~8組)

使用教科書:実教出版「高校倫理新訂版」

使用教材:第一学習社 テオーリア最新倫理資料集新版二訂

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	学習 時数
4月	青年期の課題と自己形成 青年期の意義・課題	人間とは何か、青年期とはなにか、自己形成の課題、自立への課題などについて理解する。また、そのことについて考察し、考察したことを表現することができる。	定期考査・課題・提出物・授業への取り組み方などで総合的に判断する。	4
5月	人間としての自覚 ギリシア思想	自然哲学とソフィスト、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、ヘレニズム時代の思想などについて理解する。またそれらのことについて考察し、理解したことや考察したことを表現することができる。	定期考査・課題・提出物・授業への取り組み方などで総合的に判断する。	3
	キリスト教	古代ユダヤ教、イエス、キリスト教の誕生と展開などについて理解する。またそれらのことについて考察し、考察したことを表現することができる。		2
	イスラーム	イスラームについて理解する。また、考察し、理解したことや考察したことを表現することができる。		2
6月	仏教	仏教以前のインド思想、仏陀の教え、大乘仏教の成立とその教えなどについて理解する。また、それらのことについて考察し、理解したことや考察したことを表現することができる。	定期考査・課題・提出物・授業への取り組み方などで総合的に判断する。	4
	中国思想	「道」の自覚、孔子、儒家思想の展開、老荘思想などについて理解する。また、それらのことについて考察し、理解したことや考察したことを表現することができる。		4
7月	芸術と人生	芸術と人生について理解する。また、考察し、理解したことや考察したことを表現することができる。	定期考査・課題・提出物・授業への取り組み方などで総合的に判断する。	1
8月				
9月	古代日本人の思想	日本の風土と日本人の気質、神との関わりと道徳観などについて理解する。また、それらのことについて考察し、理解したことや考察したことを表現することができる。	定期考査・課題・提出物・授業への取り組み方などで総合的に判断する。	3
	日本の仏教思想	仏教の受容、仏教の日本の展開、鎌倉仏教、仏教と日本文化などについて理解する。また、それらのことについて考察し、理解したことや考察したことを表現することができる。		3
10月	近世日本の思想	儒教の受容と朱子学、日本陽明学、日本的儒学の形成、古学、国学の形成、民衆の思想、幕末の思想などについて理解する。また、それらのことについて考察し理解したことを表現することができる。	定期考査・課題・提出物・授業への取り組み方などで総合的に判断する。	3
	西洋思想の受容と展開	啓蒙思想と自由民権思想、キリスト教の受容、国家主義の台頭と社会主義思想、近代的自我の確立、近代日本哲学の成立と超国家主義、伝統の自覚と新たな課題などについて理解する。また、それらのことについて考察し、理解したことや考察したことを表現することができる。		3
	現代に生きる人間の倫理 人間の尊厳	ルネサンス、宗教改革、モラルなどについて理解する。また、それらのことについて考察し、理解したことや考察したことを表現することができる。		3
11月	科学技術と人間	近代の自然観、新しい学問の方法、経験と合理論などについて理解する。また、それらのことについて考察し、理解したことや考察したことを表現することができる。	定期考査・課題・提出物・授業への取り組み方などで総合的に判断する。	3
	民主社会と自由の実現	民主社会の形成、社会契約説、人格の尊厳、カント、人倫、ヘーゲルなどについて理解する。また、それらのことについて考察し、理解したことや考察したことを表現することができる。		3
	社会と個人	個人と社会との調和、功利主義、社会の進歩、社会の変革、社会主義、主体性の自覚などについて理解する。また、それらのことについて考察し、理解したことや考察したことを表現することができる。		3
12月	人間への新たな問い	理性の真相への反省、言葉への反省、理性の働きへの反省、他者へのまなざしなどについて理解する。また、それらのことについて考察し、理解したことや考察したことを表現することができる。	定期考査・課題・提出物・授業への取り組み方などで総合的に判断する。	2
	社会参加と幸福	生命の畏敬と非暴力の思想、正義と福祉、社会の中の人間などについて理解する。また、それらのことについて考察し、理解したことや考察したことを表現することができる。		2
1月	現代の諸課題と倫理	生命の倫理、環境の倫理、家族の課題、地域社会の課題、高度情報社会の課題、文化と宗教の課題、国際平和と人類の福祉の課題などについて理解する。また、それらのことについて考察し、理解したことや考察したことを表現することができる。	定期考査・課題・提出物・授業への取り組み方などで総合的に判断する。	3
2月				
3月				

東京都立松が谷高等学校 令和5年度年間授業計画

教科:(1公民)科目:(政治経済) 対象:(第3学年1~8組)

使用教科書:実教出版「高校政治経済」

使用教材:

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	学習時間
4月	民主社会の原理と日本国憲法	近代立憲主義を、国家、国民主権、基本的人権と権力分立、法の支配の考え方から理解する。	定期考査の得点 授業への取り組み方 出席状況	4
5月	民主社会の原理と日本国憲法	近代立憲主義の広がりについて、市民革命以降に確立されてきた考え方を通して理解する。日本国憲法における三大原理を確認し、民主社会の実現に向けた取り組みについて理解する。 日本国憲法における三大原理を確認し、民主社会の実現に向けた取り組みについて理解する。	定期考査の得点 授業への取り組み方 出席状況	6
6月	民主社会の原理と日本国憲法	権の定義の確認を通して、日本国憲法が保障する自由権の精神的自由について理解する。	定期考査の得点 授業への取り組み方 出席状況	4
		自由権の定義の確認を通して、日本国憲法が保障する自由権の精神的自由について理解する。		4
7月	民主社会の原理と日本国憲法	自由権の定義の確認を通して、日本国憲法が保障する自由権の精神的自由について理解する。新しい人権の内容と根拠について理解し、権利の行使と公共の福祉の関係について考察する。	定期考査の得点 授業への取り組み方 出席状況	4
8月				
9月	日本の政治機構と政治参加	国民主権の原理に基づく議会制民主主義の方法や権力分立のあり方について理解する。	定期考査の得点 授業への取り組み方 出席状況	2
		国民主権の原理に基づく議会制民主主義の方法や権力分立のあり方について理解する。		4
10月	日本の政治機構と政治参加	内閣と行政の役割や議院内閣制のしくみ、行政の活動を理解し、行政の課題について考察する。 世界の国々の政治体制がどのようなものか理解し、日本との関係、似た点、違う点を理解する。 司法の役割や日本の裁判のしくみ、違憲審査権などを確認し、司法制度改革について考察する。	定期考査の得点 授業への取り組み方 出席状況	6

11 月	日本の政治機構と政治参加	<p>地方自治の考え方や地方分権のしくみを理解し、地方自治の課題を考察する。</p> <p>政党が存在する意義を確認し、世論形成やマスメディアとの関係について理解する。</p> <p>民主社会における政治参加や選挙の意義を理解し、選挙制度の課題を考察する。</p>	<p>定期考査の得点 授業への取り組み方 出席状況</p>	10
12 月	日本の政治機構と政治参加	<p>平和主義の考えを確認し、日本の防衛政策と自衛隊の関係について理解する。</p> <p>集団的自衛権をめぐる動向や、日本の安全保障政策について理解し、これからの日本の安全保障のあり方を考察する。</p>	<p>定期考査の得点 授業への取り組み方 出席状況</p>	4
1 月	市場経済の仕組み	<p>市場経済の考え方を通して、経済の循環と分業について理解する。市場経済における価格のはたらきや、政府との関係について理解し、資源の適正な配分について考察する。景気や物価の変動について理解し、物価の変動が生活に及ぼす影響を考察する。</p>	<p>定期考査の得点 授業への取り組み方 出席状況</p>	4
2 月				
3 月				